

斑点米カメムシ類の発生量のほ場間差が大きい

～発生量が多いほ場では、出穂期10日後頃と同24日後頃に薬剤散布を～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

8月1～2半旬の巡回調査（80地点）における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数（10往復、20回振）は3.5頭（平成3.4頭）で平成並、発生地点率は55.0%（平成48.5%）でやや高かった。そのうち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）のすくい取り数は2.3頭（平成2.3頭）、発生地点率は32.5%（平成31.6%）でいずれも平成並だった。アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）のすくい取り数は1.2頭（平成1.0頭）で平成並、発生地点率は42.5%（平成28.5%）でやや高かった（表－1）。

同調査における水田内雑草の発生状況別の水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草が多く発生しているほ場で多い傾向で、斑点米カメムシ類の発生量のほ場間差が大きかった（表－2、図－1）。

8月1日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平成並と予報されている。

以上のことから、水田内雑草が発生しているほ場などでは、斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想されることから、以下の防除対策によって斑点米被害の軽減に努める。

2. 防除対策

- 1) 1回目の防除として、出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤を畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。
- 2) 1)の散布当日から7日後までに畦畔や農道の除草を必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去する。
- 3) 水田内に出土したホタルイ類などのカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加えて同24日後頃にもエクシード剤又はキラップ剤を茎葉散布する。ただし、セジロウンカが多発しているほ場では、同時防除が可能なエクシード剤を選択することが望ましい。

3. その他

- 1) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努める。
- 2) 巣箱の設置場所が隣接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～正午）を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬を散布する。
- 3) 農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合は、飛散しにくい散布ノズルを使用するなどの飛散防止対策を講じる。

4. 資料

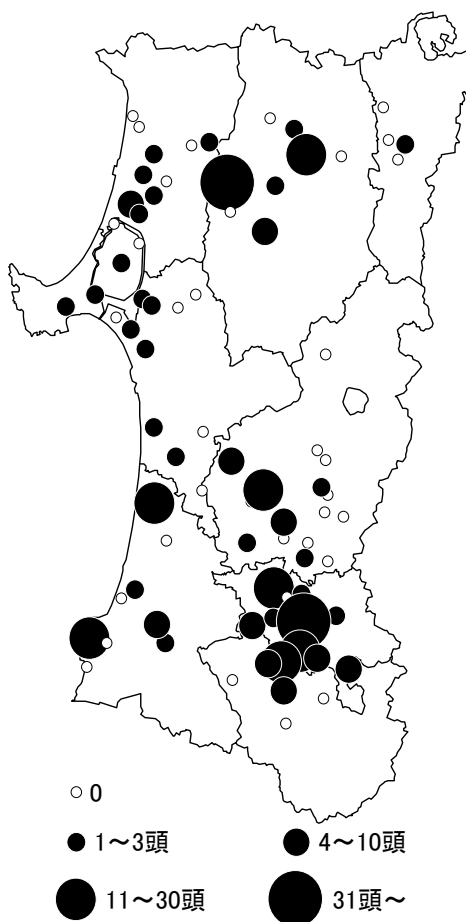
表－1 水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り結果(8月1～2半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい 取り数(頭)	発生 地点率(%)	すくい 取り数(頭)	発生 地点率(%)	すくい 取り数(頭)	発生 地点率(%)
2024	3.5	55.0	2.3	32.5	1.2	42.5
平年	3.4	48.5	2.3	31.6	1.0	28.5
概評	並	やや多	並	並	並	やや多

表－2 水田内雑草の発生状況別の水田内でのすくい取り数(8月1～2半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況別 地点数	斑点米カメムシ類(頭)※ ¹	アカスジ(頭)※ ¹	アカヒゲ(頭)※ ¹
多い※ ²	15	11.1	9.6	1.4
少ない※ ³	23	1.8	0.9	0.9
発生無し	42	2.0	0.8	1.2

※1:1地点当たりのすくい取り数 ※2:1株/㎡以上 ※3:1株/㎡未満



図－1 水田における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月1～2半旬)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>